

☆「医療的ケア児」や家族をサポート 京都府が支援センター開設

NHK京都府のニュース 04月25日

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/kyoto/20220425/2010014142.html>

> 日常的に人工呼吸器やたんの吸引などが必要な「医療的ケア児」やその家族をサポートするため、京都府は相談を受け付ける支援センターを発足させました。25日は京都府庁で、西脇知事などが出席して、医療的ケア児の支援センターが設けられる健康福祉部の入り口に看板がかけられました。京都府によりますと、日常的に人工呼吸器やたんの吸引などが必要な「医療的ケア児」は昨年度時点で、府内は273人で、この5年で50人近く増えているということです。支援センターでは、看護師などが電話で相談を受け付け、保健所や訪問看護ステーション、それに保育所など、生活に関わるさまざまな関係機関との橋渡しなどを行うということです。「京都府医療的ケア児等支援センター」の長谷川学センター長は「支援に向けては医療や福祉など、さまざまな機関との連携が必要であり、コアの役割を担っていきたい。相談の中で新たな課題も見つかると思うので、丁寧に対応していきたい」と話していました。支援センターの電話番号は075-414-5120で、祝日と年末年始を除く平日の午前9時から午後4時まで相談を受け付けています。



...などと伝えています。

☆京都市で障害のある

子どもがいる家庭の支援考えるシンポジウム

NHK京都府のニュース 04月24日

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/kyoto/20220424/2010014136.html>

> おとし、京都市で重い知的障害のある17歳の長男が母親に殺害された事件を受けて、障害のある子どもがいる家庭への支援を話し合うシンポジウムが市内で開かれました。おとし7月、京都市で、重い知的障害のある長男が母親に殺害された事件で、特別支援学校を卒業する長男の将来への不安が背景にあったことが裁判で明らかになりました。この事件を受けて、障害のある子どもがいる家庭への支援を話し合うシンポジウムが市内で開かれ、オンラインも含めて、特別支援学校に通う子どもの家族や障害者施設の関係者などおよそ110人が参加しました。この中で、特別支援学校高等部3年の男子生徒の母親が登壇し、「卒業したあとの進路が見つかるか不安です。こうした家族のSOSをキャッチする仕組みを作してほしい」と心情を語りました。また、グループホームなどを運営する事業所の施設長は「卒業したあとも生活は切れ目なく続き、暮らしを支える課題は大きくなるため、施設側も家族や本人と話し合いを続けていく必要があると思います」と訴えていました。シンポジウムを主催した支援団体の池添素さんは「施設運営の大変さや学校との連携の難しさなど、課題をたくさん感じました。シンポジウムを通して、みんなが自分らしく生きていける社会になってほしい」と話していました。



...などと伝えています。